

古墳～奈良～平安

12棟

千年前の先人の住居跡

長倉地区で発掘



我が先人たちの暮らしの跡
(手前は奈良時代の住居跡)

千年昔ヘタイム・トラベル——このほど、長倉大宮神社脇の道路予定地から、古墳・奈良・平安期の住居跡12棟や掘立柱建物跡36基など、千年以上も昔の遺跡が発掘されました。遺跡からは土師器・須恵器などの土器類や、鉄器・石器が数多く出土し、さらに少し離れた塚からは和鏡や古銭が見つかっています。「一か所で、これほど密度の濃い住居跡は珍しい」(県文化課) そうです。



珍しい話題などがありましたら
ぜひ御連絡ください

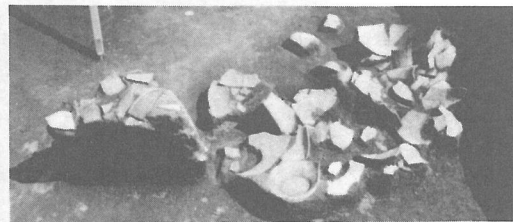
ひろば



和鏡や古銭が出土した塚(墳丘)



発掘作業風景



出土した須恵器
(平安時代のもの)

見学を希望される方は、教育委員会(文化財担当)までご連絡ください。

私のひとこと



「亀の甲より年の功」という諺がありますが、書物の上の学問では、とても若い者に太刀打ちできなくとも、酔いも甘いもかみわける精神的貯蓄は、自分自身を振り返ってみても、年月の偉大さを感じさせます。

母親雑感

押尾昭江(長倉)

……子供を産み……
しかし、千の倉より子は宝といえますように、子供によって成長させられた面が多くあります。子供が就園就学することによって、親同士が子供によって結ばれ、子供がかけ橋となって母親の社会が広がりました。そして、PTAの会合や、役員付き

合いなどを通じて良い友を得、たくさんの方との出会いによって、人のふり見て我がふり直し等々と、子供の成長とともにいろいろ教えられ、学ばされてきました。

学習面においては十分とはいえない子供でも、月日とともに心と体が大きく成長し、その出来不出来にかかわらず、たしになる面を列記したら数限りなくあり、それぞれ親にとって、まさしく子は宝といえます。

どう生きるべきかという点では無為無策の人生で、ただ月日の流れとともに漫然と、人生の流れと変化に応じて、その時々を取り組んで生きる消極的な人生が、これからも続くでしょう。

財産も、地位も、名誉も、健康の前には虚しいものと悟り、ひたすら健康第一を願い、子供の良きアドバイザーとして、また包容力のある母として、なるようにしかかならない与えられた運命に、無理せず、年の功を積み上げていこうと思います。